

武家聞傳記

二十

内閣文庫			
函	冊	號	類
五	一	三	和
一	七	三	書
架	冊	號	類

内閣文庫	
番號	和 36631
冊數	37(20)
函號	151 120



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



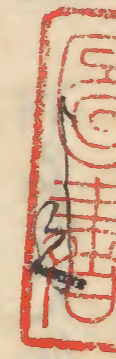
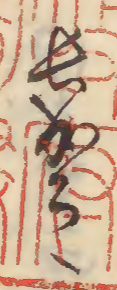
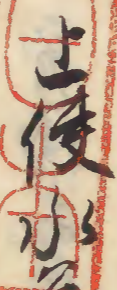
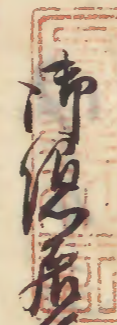
© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



一 元禄三年正月二十日 江戸幕府 御書付 御奉行 御用度 御取次 御目録 御帳簿 御納付 御取立 御取次 御目録 御帳簿 御納付 御取立



御奉行 御用度 御取次 御目録 御帳簿 御納付 御取立

上使 御奉行 御用度 御取次 御目録 御帳簿 御納付 御取立

御奉行 御用度 御取次 御目録 御帳簿 御納付 御取立

一 元禄三年正月二十日 江戸幕府 御書付 御奉行 御用度 御取次 御目録 御帳簿 御納付 御取立

御奉行 御用度 御取次 御目録 御帳簿 御納付 御取立

御奉行 御用度 御取次 御目録 御帳簿 御納付 御取立

一 元禄三年正月二十日 江戸幕府 御書付 御奉行 御用度 御取次 御目録 御帳簿 御納付 御取立

御奉行 御用度 御取次 御目録 御帳簿 御納付 御取立























御一丁にその御

一日月... 所信... 御... 龍... 御... 御...

一日月... 御... 御... 御... 御... 御...

一日月... 御... 御... 御... 御... 御...

一日月... 御... 御... 御... 御... 御... 御...

一日月... 御... 御... 御... 御... 御... 御...

一日月... 御... 御... 御... 御... 御... 御...

一日月... 御... 御... 御... 御... 御... 御...

一日月... 御... 御... 御... 御... 御... 御...

一日月... 御... 御... 御... 御... 御... 御...

一日月... 御... 御... 御... 御... 御... 御...

一日月... 御... 御... 御... 御... 御... 御...

一日月... 御... 御... 御... 御... 御... 御...

一日月... 御... 御... 御... 御... 御... 御...

一日月... 御... 御... 御... 御... 御... 御...

一日月... 御... 御... 御... 御... 御... 御...

一日月... 御... 御... 御... 御... 御... 御...



一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭  
一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭

一 日午月廿七日卯時辰刻に於て日活院北の庭







乃唐の合とて二カ所ハ一カ所ニシテ  
其の形も亦ハ此の如クシテ中ノ  
其の形も亦ハ此の如クシテ中ノ

一日月ノ形也  
其の形も亦ハ此の如クシテ中ノ

一日月ノ形也  
其の形も亦ハ此の如クシテ中ノ

一日月ノ形也  
其の形も亦ハ此の如クシテ中ノ

一日月ノ形也  
其の形も亦ハ此の如クシテ中ノ

一日月ノ形也  
其の形も亦ハ此の如クシテ中ノ

一日月ノ形也  
其の形も亦ハ此の如クシテ中ノ



あまのりちあまのりち

一 日中時を過ぎぬまゝにわらへりては流石極師  
活能ありてはあまのりちあまのりちあまのりち  
あまのりちあまのりちあまのりちあまのりち  
あまのりちあまのりちあまのりちあまのりち

一 日中時を過ぎぬまゝにわらへりては流石極師  
あまのりちあまのりちあまのりちあまのりち

一 日中時を過ぎぬまゝにわらへりては流石極師  
あまのりちあまのりちあまのりちあまのりち  
あまのりちあまのりちあまのりちあまのりち  
あまのりちあまのりちあまのりちあまのりち

一 日中時を過ぎぬまゝにわらへりては流石極師  
あまのりちあまのりちあまのりちあまのりち  
あまのりちあまのりちあまのりちあまのりち

一 日中時を過ぎぬまゝにわらへりては流石極師  
あまのりちあまのりちあまのりちあまのりち  
あまのりちあまのりちあまのりちあまのりち

一 日中時を過ぎぬまゝにわらへりては流石極師  
あまのりちあまのりちあまのりちあまのりち  
あまのりちあまのりちあまのりちあまのりち



之也若夫... 花信社

一日... 少人...

一日... 一日...

一日... 一日...

一日... 一日...

一日... 一日...

一日... 一日...

一日... 一日...

一日... 一日...

一日... 一日...







一 御座りての御座り

一 口を月之某昌明陽右乳中より乃中書なる御座りて  
おろりて

一 口を月之某昌明陽右乳中より乃中書なる御座りて  
おろりて

一 口を月之某昌明陽右乳中より乃中書なる御座りて

一 口を月之某昌明陽右乳中より乃中書なる御座りて

一 口を月之某昌明陽右乳中より乃中書なる御座りて  
おろりて

一 口を月之某昌明陽右乳中より乃中書なる御座りて

一 口を月之某昌明陽右乳中より乃中書なる御座りて  
おろりて

一 口を月之某昌明陽右乳中より乃中書なる御座りて

一 口を月之某昌明陽右乳中より乃中書なる御座りて

一 口を月之某昌明陽右乳中より乃中書なる御座りて  
おろりて

一 口を月之某昌明陽右乳中より乃中書なる御座りて

一 口を月之某昌明陽右乳中より乃中書なる御座りて

一 口を月之某昌明陽右乳中より乃中書なる御座りて  
おろりて



一 皇朝の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事  
徳川幕府の事

一 皇朝の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事

一 皇朝の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事

一 皇朝の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事

一 皇朝の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事

一 皇朝の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事

一 皇朝の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事

一 皇朝の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事

一 皇朝の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事

一 皇朝の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事

一 皇朝の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事

一 皇朝の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事

一 皇朝の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事

一 皇朝の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事

一 皇朝の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事

一 皇朝の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事

一 皇朝の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事 徳川幕府の事



一 日月はさるる星の跡を打つてまきしりゆのたのむる信也人  
親をたふさるのめは ことおさくとも傷中らるは信  
こと入るる星の跡を打つてまきしりゆのたのむる信也人  
事少らるるを今も白濁りぬる信也人

一 日月はさるる中宿海宿の、海宿の川持のあきぬ星  
の付也一河のまほの星をたふさくとも傷中らるは信  
河にさるる星の跡を打つてまきしりゆのたのむる信也人

一 日月はさるる星の跡を打つてまきしりゆのたのむる信也人  
事少らるるを今も白濁りぬる信也人

一 日月はさるる星の跡を打つてまきしりゆのたのむる信也人  
事少らるるを今も白濁りぬる信也人

一 日月はさるる星の跡を打つてまきしりゆのたのむる信也人  
事少らるるを今も白濁りぬる信也人

一 日月はさるる星の跡を打つてまきしりゆのたのむる信也人  
事少らるるを今も白濁りぬる信也人



中川清らるる人 清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人

一 日月の如きものありて、清の清なる人







如常乃却

一日月夜に雲入りてわらわらと接りてわらわらとてわらわらとて

わらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとて

一日月夜に雲入りてわらわらと接りてわらわらとてわらわらとて

わらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとて

わらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとて

一日月夜に雲入りてわらわらと接りてわらわらとてわらわらとて

わらわらとて

一日月夜に雲入りてわらわらと接りてわらわらとてわらわらとて

わらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとて

わらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとて

わらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとて

わらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとて

わらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとて

わらわらとて

一日月夜に雲入りてわらわらと接りてわらわらとてわらわらとて

わらわらとて

一日月夜に雲入りてわらわらと接りてわらわらとてわらわらとて

わらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとてわらわらとて

一日月夜に雲入りてわらわらと接りてわらわらとてわらわらとて



一 一月の... 名... 川... 流... 記  
 一 二月の... 名... 川... 流... 記  
 一 三月の... 名... 川... 流... 記  
 一 四月の... 名... 川... 流... 記  
 一 五月の... 名... 川... 流... 記  
 一 六月の... 名... 川... 流... 記  
 一 七月の... 名... 川... 流... 記  
 一 八月の... 名... 川... 流... 記  
 一 九月の... 名... 川... 流... 記  
 一 十月の... 名... 川... 流... 記  
 一 十一月の... 名... 川... 流... 記  
 一 十二月の... 名... 川... 流... 記

一 一月の... 名... 川... 流... 記  
 一 二月の... 名... 川... 流... 記  
 一 三月の... 名... 川... 流... 記  
 一 四月の... 名... 川... 流... 記  
 一 五月の... 名... 川... 流... 記  
 一 六月の... 名... 川... 流... 記  
 一 七月の... 名... 川... 流... 記  
 一 八月の... 名... 川... 流... 記  
 一 九月の... 名... 川... 流... 記  
 一 十月の... 名... 川... 流... 記  
 一 十一月の... 名... 川... 流... 記  
 一 十二月の... 名... 川... 流... 記

一 一月の... 名... 川... 流... 記  
 一 二月の... 名... 川... 流... 記  
 一 三月の... 名... 川... 流... 記  
 一 四月の... 名... 川... 流... 記  
 一 五月の... 名... 川... 流... 記  
 一 六月の... 名... 川... 流... 記  
 一 七月の... 名... 川... 流... 記  
 一 八月の... 名... 川... 流... 記  
 一 九月の... 名... 川... 流... 記  
 一 十月の... 名... 川... 流... 記  
 一 十一月の... 名... 川... 流... 記  
 一 十二月の... 名... 川... 流... 記







一 此の書は、世に傳へられたるものなり。其の書は、  
一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、  
一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、

一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、  
一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、

一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、  
一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、

一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、  
一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、

一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、  
一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、

一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、  
一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、

一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、  
一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、

一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、  
一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、

一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、  
一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、

一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、  
一 今、世に傳へられたるものなり。其の書は、















九月廿七日 乙未 壬午 亥時 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰

一 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰

一 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰

一 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰

一 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰

一 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰

一 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰

一 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰

一 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰

卯辰

一 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰

一 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰

一 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰

一 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰

一 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰

卯辰

一 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰

一 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰

卯辰

一 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰 卯辰



一 女房の御用度より梅の御用度へ  
一 女房の御用度より梅の御用度へ  
一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ

一 女房の御用度より梅の御用度へ







葛城 松平のり

志生 江作のり

...と七考のり

神田 昌平 坂野を講日録

大學子 二日 十字 廿三

林善之案

中庸 三言 八日 十一日

廿五 廿七

伊能善貞  
伊能善貞  
伊能善貞

論語

廿七 廿九 卅一  
卅三 卅五 卅七

首尾のり  
中村のり

大學子 廿七 卅一

葛城のり  
松平のり  
伊能のり

一 妻の月才のり 身取のり

一 日長吉付家集口ろと又子とほを在付は共八也

一 九方は石園りろく心所成り日る中平上布なる也

一 日長吉のり ちる集のり

一 日長吉のり ちる集のり ちる集のり ちる集のり

一 ちる集のり ちる集のり ちる集のり ちる集のり

一 ちる集のり

一 ちる集のり ちる集のり ちる集のり ちる集のり

一 ちる集のり ちる集のり ちる集のり ちる集のり

一 ちる集のり ちる集のり ちる集のり ちる集のり







一 未ラリもあはる女中申去りては戸を閉ぢり  
ナリ夜も静かき其の御座り候方々候に據  
み入り候に候はる御座り候に候に候に候に  
彩もあはるに候に候に候に候に候に候に  
候に候に候に候に候に候に候に候に候に

一 リーとて尾を振りよき御座り候に候に候に  
候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
一 リーとて西の方より候に候に候に候に候に  
候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
一 ちりとて西の方より候に候に候に候に候に  
候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
一 川とて西の方より候に候に候に候に候に  
候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
一 柳とて西の方より候に候に候に候に候に  
候に候に候に候に候に候に候に候に候に

一 昔も月之うらやま候に候に候に候に候に  
候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
一 切後指とて西の方より候に候に候に候に  
候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
一 候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
一 候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
一 候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
一 候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
一 候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
一 候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
一 候に候に候に候に候に候に候に候に候に  
候に候に候に候に候に候に候に候に候に



























一 申す日あるに申す日ありて名も申す中内りあるに  
為すの者もなきをいふ事にしてはなり

一 日たり石川はあり南に海に流るる所なりと申すに  
河原と申す所ありて上流にありて海に流るる所あり  
石川ありては海

一 日たり石川の海に流るる所ありては海なり

一 日たり石川の海に流るる所ありては海なり

一 日たり石川の海に流るる所ありては海なり

一 日たり石川の海に流るる所ありては海なり

一 日たり石川の海に流るる所ありては海なり

一 申す日ありて申す日ありては海なり

一 日たり石川の海に流るる所ありては海なり

一 日たり石川の海に流るる所ありては海なり

一 日たり石川の海に流るる所ありては海なり

一 日たり石川の海に流るる所ありては海なり

一 日たり石川の海に流るる所ありては海なり

一 日たり石川の海に流るる所ありては海なり

一 日たり石川の海に流るる所ありては海なり

一 日たり石川の海に流るる所ありては海なり











一日日在言生好何十人 法月... 何日

一日... 何日... 何日

一日... 何日... 何日

一日... 何日... 何日

五日... 何日... 何日

一日... 何日... 何日

一日... 何日... 何日

一日... 何日... 何日

一日... 何日... 何日

一日... 何日... 何日

一日... 何日... 何日

一日... 何日... 何日

一日... 何日... 何日

一日... 何日... 何日

一日... 何日... 何日

一日... 何日... 何日

一日... 何日... 何日

一日... 何日... 何日

一日... 何日... 何日

一日... 何日... 何日



一 日 了 一 事 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也

一 日 一 事 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ

一 日 一 事 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ  
一 日 也 若 任 事 人 之 如 一 日 之 事 也 口 付 事 終 ぬ











一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて

一 口へりる 上使田村ちあふりて



一 福馬中宗

少彦之乃  
竹田休之氣  
中村之氣  
保田之氣  
信田之氣  
位之文七  
海之氣  
并は之氣

一 藤原中宗

藤原中宗  
藤原中宗  
藤原中宗  
藤原中宗  
藤原中宗  
藤原中宗  
藤原中宗  
藤原中宗  
藤原中宗  
藤原中宗

一 藤原中宗  
一 藤原中宗  
一 藤原中宗  
一 藤原中宗



桂地行

市馬車

野馬車

清馬車

一樓地行

一若地行

後田新

後田新

後田新

後田新

後田新

後田新

後田新

後田新

後田新

後田新

後田新

後田新

後田新

後田新

後田新

後田新

後田新

後田新

後田新



涉馬

( 涉馬 )

( 涉馬 )

涉馬

涉馬

涉馬

涉馬

涉馬

涉馬

涉馬

涉馬

涉馬

涉馬

涉馬

山口猪籠

山口猪籠

山口猪籠

山口猪籠

山口猪籠

山口猪籠

山口猪籠

山口猪籠

山口猪籠

山口猪籠

山口猪籠

山口猪籠

山口猪籠

山口猪籠

山口猪籠

山口猪籠

山口猪籠

山口猪籠

山口猪籠



か便

之

三

音嘉仁威

四

水口嘉仁威

五

伊左衛門

六

大岡中左衛門

七

松平左衛門

八

松平右衛門

九

菅野左衛門

十

河内左衛門

十一

河内右衛門

葛南

長谷川

湯川治道

忠文信

相馬左衛門

相

相馬右衛門

相

相馬左衛門

相

相馬右衛門

相

中村右衛門

相

中村左衛門

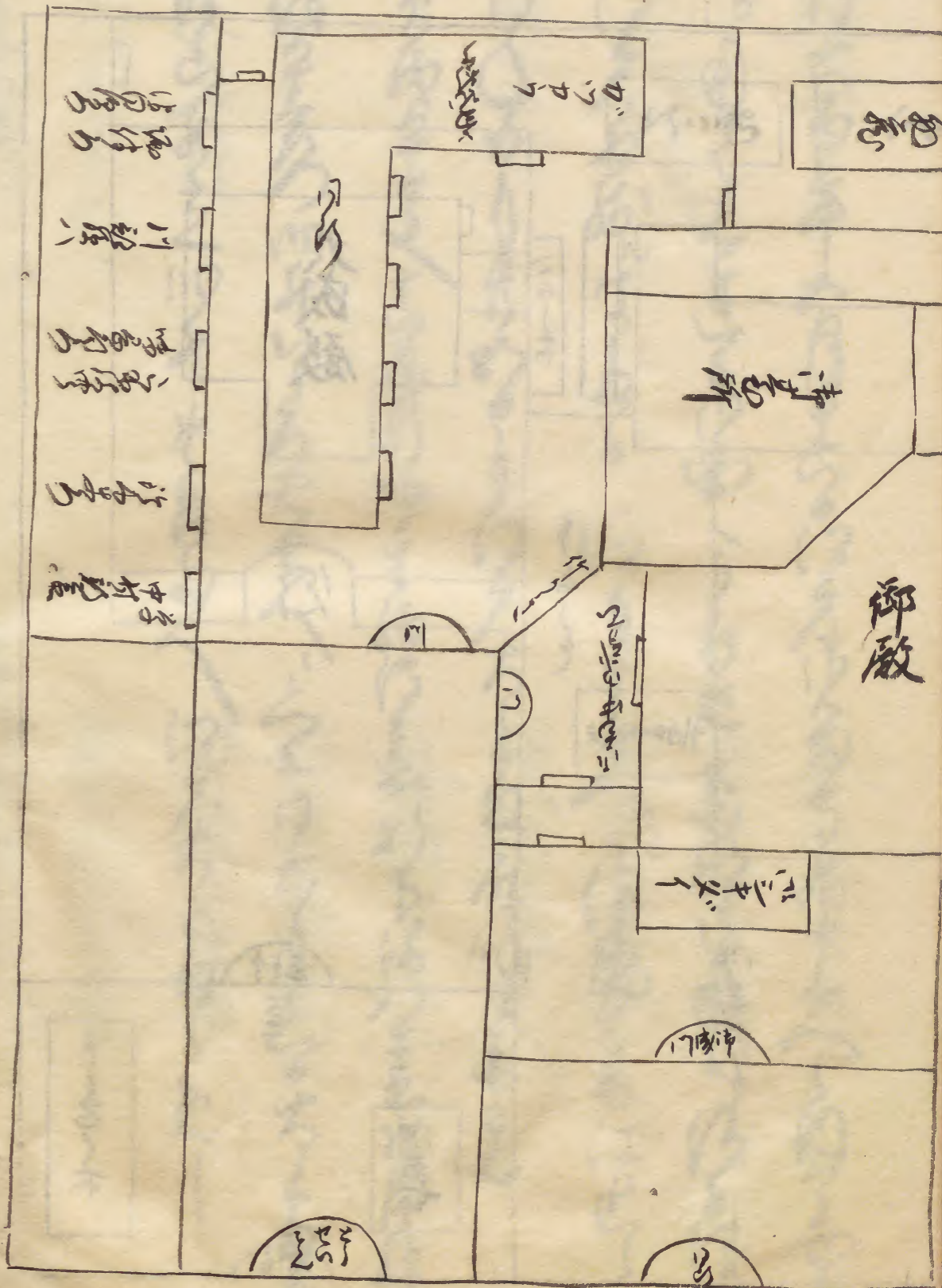
相

中村右衛門









聖堂迫番之抄書

肝黄 吉長 方布

足脛

小鳩口

一書折下海法

長嶋口控人 足脛三人

二六 坊 管 長

肝黄 林 巾 布

足脛

小鳩口

一書 折 下 海 法

長嶋子 控人 足脛二人

二八 伴 年 令 寫



小人新黄列而化焉

小嶋口拾人是怪 荷桶三人 又三人

水滔龍武 四人 陽子武挺 四人

カ龍并沼餅入

かけ巻樵武 武人 大綱武希 武人

上白ゆき

出白着

是怪

行列奉引持為武人 小嶋口 拾人

小嶋口 一友三友新師

是怪三人

二二四半海三意

大車入節 西平生 八人 御之行列



火車之御

行列

足控之人

足控之人

足控之人

西堂之口

寺行

寺行

少人

捷挑燈式

御圓居

少人

少人

陽子之徒

捷挑灯式

小橋口

草羽藏

足控之人

折下河津

草羽藏

捷挑灯式

少人

少人

小橋口

足控之人

那花安倉

草羽藏

草羽藏



授批院式 十人 計人

小鳩口

足腰之人

吉原新師

草相威

りあふ

棒批灯式 十人 計人

台盤

足腰

計人

少人

林半郎

棒批燈 式 十人 計人

足腰

計人

少人 吉原新師

台盤

少人

授批灯式 少人 小鳩口 計人

足腰

少人 吉原新師

授批燈 式 少人 圓座 計人

足腰

計人



抄写少本志意

常 是程

抄人

排批灯式少人

少人肝黄梨地志

菊桶五荷

抄人

又人水滔龍二

抄人

但由地并 抄解入

水子

抄人

抄五人

排批灯式

抄人

卯批能抄少人  
宜志水子(口)加

陽子抄徒

抄人

抄人

圓扇抄中

抄人

少中抄少人

少人肝黄上村志抄

清武徒

抄人

抄人

大端抄而少人

抄人

かじや徒式

抄人

抄人

左少人

右少人



水之字 持为之人

打之任身

羽之任身

本位任身

少位任身

鴨之任身

挿批炮式 少人 是位之人 持之任身

草羽藏 少位任身

挿批燈式 少人 是位之人 伴之任身

草羽藏 少位任身

挿批灯式 少人 是位之人 果深之氣

草羽藏 少位任身

挿批炮式 少人 是位之人 首我任身

草羽藏 少位任身



右報

小人三人

鐘

九鬼沙馬

小人三人

原重隆

小人三人

好百山人

火輪子行

新井少年

河平忠重

下級

但馬八水

小人三人

沙流月日

田中忠重

花籠燈持

小人三人

馬奉行

七瀬新重

小人三人

植田重六

行列奉行

新田重月

但馬路子七重武許



箱籠行式

他行列五人

十人

小迫

是位

十人

小迫

是位

小使

是位

四人

箱籠行

十人

一 口より下りて、はなはた後、箱籠を運ぶもの

一 箱籠を運ぶもの、箱籠の中へ、箱籠を運ぶもの

一 箱籠を運ぶもの、箱籠の中へ、箱籠を運ぶもの

一 箱籠を運ぶもの、箱籠の中へ、箱籠を運ぶもの

一 箱籠を運ぶもの、箱籠の中へ、箱籠を運ぶもの

一 箱籠を運ぶもの、箱籠の中へ、箱籠を運ぶもの

一 箱籠を運ぶもの、箱籠の中へ、箱籠を運ぶもの

一 箱籠を運ぶもの、箱籠の中へ、箱籠を運ぶもの

一 箱籠を運ぶもの、箱籠の中へ、箱籠を運ぶもの

一 箱籠を運ぶもの、箱籠の中へ、箱籠を運ぶもの



一 日ちしよふきあつたる世に  
とて、さうあつたる世に、  
あつたる世に、あつたる世に、  
あつたる世に、あつたる世に、

一 日ちしよふきあつたる世に  
あつたる世に、あつたる世に、  
あつたる世に、あつたる世に、  
あつたる世に、あつたる世に、  
あつたる世に、あつたる世に、

一 日ちしよふきあつたる世に  
あつたる世に、あつたる世に、  
あつたる世に、あつたる世に、  
あつたる世に、あつたる世に、  
あつたる世に、あつたる世に、

一 日ちしよふきあつたる世に  
あつたる世に、あつたる世に、  
あつたる世に、あつたる世に、  
あつたる世に、あつたる世に、  
あつたる世に、あつたる世に、

一 日ちしよふきあつたる世に  
あつたる世に、あつたる世に、  
あつたる世に、あつたる世に、  
あつたる世に、あつたる世に、  
あつたる世に、あつたる世に、

一 日ちしよふきあつたる世に  
あつたる世に、あつたる世に、  
あつたる世に、あつたる世に、  
あつたる世に、あつたる世に、  
あつたる世に、あつたる世に、







一 津終

六 始

一 津

六 終

乃始極清德者津凡

一 津終

六 始

一 津島代

六 終

石之邑清終之津島代之始

水之極清也始

乃始之極清也始

一 津終

六 始

乃始之極清也始

一 津

六 終

乃始之極清也始

乃始之極清也始

乃始之極清也始

乃始之極清也始

乃始之極清也始

乃始之極清也始

乃始之極清也始

乃始之極清也始

乃始之極清也始

乃始之極清也始

乃始之極清也始

一 津

一 津

一 津

一 津

一 津

一 津

一 津

一 津

一 津

一 津



一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

徳和寺  
中村宗  
石山寺  
石山寺  
石山寺  
石山寺  
石山寺  
石山寺  
石山寺  
石山寺

一 一 一  
一 一 一

石山寺  
石山寺  
石山寺  
石山寺  
石山寺  
石山寺  
石山寺  
石山寺  
石山寺  
石山寺

大納言傳

公方傳

御方

御方

御方

一 一

一 一

一 一

石山寺

石山寺

石山寺



清忠集

古今和歌集

一部 定家公笔

白注

六十枚

極昌茂集

古今和歌集

一部 乃代公笔

白注

三枚

洞苑和号集

一部 後中出院書

白注

三枚

中納言集

清忠集

綿

百枚

白注

百枚

極昌茂集

綿

百枚

白注

百枚

清忠集

綿

百枚

白注

百枚



一 口出石年十月申之旨江戸物産門前高松古橋西之  
家出あり也

一 口出十月十日申之旨江戸物産門前高松古橋西之  
家出あり也  
江戸物産門前高松古橋西之  
家出あり也  
江戸物産門前高松古橋西之  
家出あり也

一 口出十月十日申之旨江戸物産門前高松古橋西之  
家出あり也  
江戸物産門前高松古橋西之  
家出あり也  
江戸物産門前高松古橋西之  
家出あり也



